

日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム  
パネルディスカッション  
「原子力の自主的安全性向上の推進と  
学協会規格基準について」

2014年5月16日

電気事業連合会  
原子力開発対策委員会 委員長  
豊松 秀巳

# 福島第一原子力発電所事故からの反省と 自主的安全性向上の取組み

## 福島第一発電所事故からの反省

- ①発生確率が極めて小さいシビアアクシデントへの取組みが不十分だったのではないか
- ②法令要求を超えて安全性を向上させるという意識が低かったのではないか
- ③世界の安全性向上活動に学び、自主的に改善する取組みが不足していたのではないか

## 自主的安全性向上の取組みの観点

- ①深層防護(5層)による安全確保の強化
- ②規制の枠組みにとどまらない安全性向上の推進
- ③世界に学ぶ安全性向上活動の強化

リスク・ガバナンスの枠組みに沿ったリスクマネジメントの強化が必要

# リスクマネジメントの強化方策

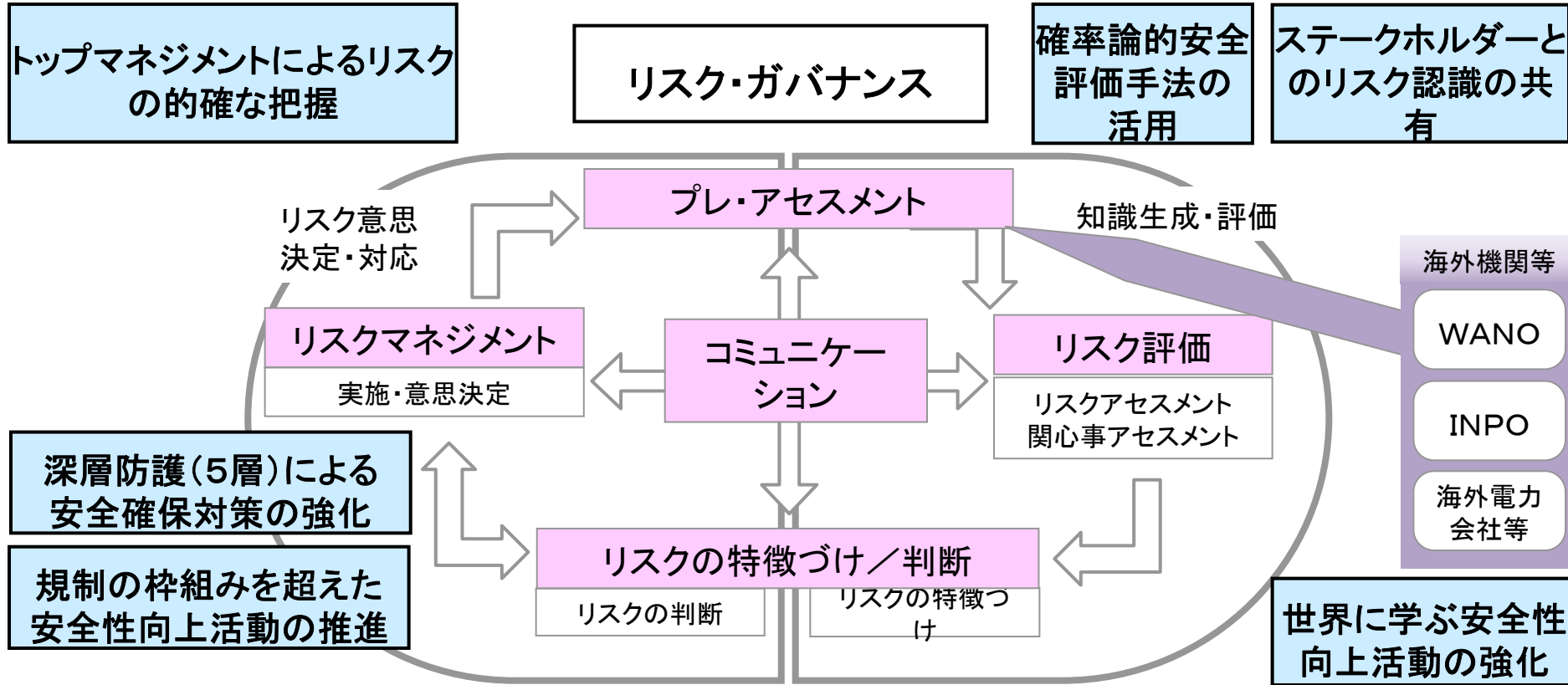
強化ポイント	電気事業全体	個社
(1) トップマネジメントによる リスクの的確な把握	第三者的立場から リスクを警告する仕組み	トップマネジメントとしてリスク情報を認識 し経営課題として扱う仕組み
(2) リスク低減のための専門 技術の活用	確率論的手法を含めた 技術検討・研究開発により、 課題を解決する仕組み	—
(3) PRAの活用強化	PRA高度化等、活用推進 の仕組み	PRA手法の開発・強化
(4) 世界に学ぶ安全性向上 活動の強化	知見の収集・蓄積機能	知見への感度向上機能
(5) 全体を俯瞰した上での 安全研究の効果的な実施	安全研究のコーディネート 機能	—
(6) 規制の枠組みを越えた 安全性向上活動の推進	各社の活動を牽引・確認 する仕組み	安全性向上活動を推進する仕組みの 強化
(7) ステークホルダーとの リスク認識の共有	リスクコミュニケーション 手法の調査・検討	リスクコミュニケーションの実施、 リスク情報の活用

電気事業全体の取組みについては、

**電気事業者等にて検討を進め、2014年度早々のとりまとめを目指す**  
個社の取組みについては、

**具体的な取組み内容、スケジュールを各社が独自に検討し公表する**

# リスク・ガバナンスの枠組みに沿った取組みと安全文化醸成活動



## 安全文化醸成

- ・原子力事業の安全確保にはトップによる揺ぎない安全意識の明確化と迅速な意思決定が重要
- ・安全最優先の事業運営を図るため、原子力の安全文化の状況をさまざまな切り口から評価し、継続的に改善する仕組みを構築

# 自主的安全性向上の取組みに係る 学協会への期待

## 学協会規格の性質

- ・国内外の動向、新知見を反映
- ・専門家による高い専門性でのコンセンサス
- ・各ステークホルダーなど社会に開かれた厳格な策定過程
- ・特定の業種の利害に偏らない規格

## 学協会への期待

- ・事業者の自主的安全性向上の取組みを推進するための民間規格
- ・性能規定化された国の規制基準を仕様規定として具体化した民間規格
  - 科学的知見の反映、国際的動向との整合、規定の科学的根拠の明確化を実施
  - 公開会議での審議、公衆審査で意見聴取など透明性の確保および広く専門家の意見を反映できる仕組みを堅持

## 学協会の一員としての事業者の役割

- ・産官学が協力して規格を策定し、事業者は積極的に役割を果たす
  - ⇒ 専門家として一翼を担う（規格の策定および利用において重要な役割）
  - ⇒ 運転経験等の知見だけでなく、現場の問題点、課題も提示（規格の活用性）
  - ⇒ 俯瞰的かつ分野横断的な視点を持って参画